

# ともえ



繁栄を  
あなたと育てる  
商工会議所



貨物フェリー「はやぶさ」の進水式(函館どつく(株)函館造船所にて)

No. 161

函館商工会議所報  
1995 — 3月号

# のびゆく地元のお手伝い……

ゆたかな夢を大きく育てる。

みなさまの



## 函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL 22 - 1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42 - 3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23 - 6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51 - 1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41 - 6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL 73 - 2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52 - 0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84 - 2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26 - 3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65 - 2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51 - 5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2 - 3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57 - 1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5 - 5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53 - 5521(代)			

# Lhくみのローン

手続カンタン  
スピード融資

目的ローン

マイカーローン

ビジネス・オート  
ローン

★詳しくは窓口へ  
お問い合わせ下さい。



・コミュニティバンク・

## 函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎代23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

●ともえ3月号 (通巻161号) 目次

今月の表紙／視点 2～5  
 会議所の動き 1

・記念式典等、具体的な事業決まる！  
 ・教育・交通網の整備を目指し！  
 ・人・まちづくりの講演会活発化！  
 ・第一回空港整備対策特別委員会開催  
 ・議員異動のお知らせ  
 ・雇用関連法の一部を改正  
 ・函館却商連盟による講演会開催  
 ・南ア共和国大使館参事官本所を表敬訪問  
 データをチェック 6

調査レポート 6～11

・地域の景気金融経済概況 (一月)  
 ・市内第一種大規模小売店舗売上高 (一月)  
 ・函館地域における景気動向 (平成六年年度  
 第3四半期)

誌上講演 12～13

・商人物語ー升屋小右衛門 (4)

人を活かす

共済推進コーナー 15 14

テイタイム

暮らしのワンポイント

・アイ・ラブゆうちゃん

有段を目指して 詰碁・詰将棋

アドバイスコナー 16～17

・生前贈与と相続対策 (5)

Q & A 18～19

・みんなの相談室 (労務相談)

ご案内 20～22

・刊行物のご案内

・「商法改正と最低資本金制、税制改正への  
 対応策」ご案内

・新入社員セミナーご案内

・会員サービス事業のお知らせ

・平成七年度検定試験日程

・第39回函館圏優良土産品推奨会のご案内

・ハローワーク函館からのお知らせ



写真提供／函館どつく(株)函館造船所

◆今月の表紙  
 函館どつく(株)函館造船所で行  
 われた貨物フェリーの進水式  
 函館ー青森間を運航する貨物  
 フェリー(はやぶさ)の進水式  
 が、去る二月十日、函館どつく  
 (株)函館造船所で行われた。  
 この貨物フェリーは、北日本  
 海運(株)と共栄運輸(株)の発注によ  
 り建造されたもので、全長九十  
 三メートル、幅十五・六メート  
 ルと収容スペースが広く、今後  
 の大型トラック輸送に向け、大  
 きな期待が寄せられている。

視点



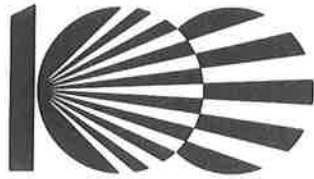
函館市の平成七年度予算を審議する市議会が、二月二十  
 四日から三月二十二日までの二十七日間開催されています。  
 予算は、①市民福祉の向上と教育文化の充実、②都市基  
 盤の整備と産業経済の振興、③広域交流の推進と行財政運  
 営の効率化、の三本の柱で編成されています。  
 この中で我々にとって注目する予算が、数多く提案され  
 ているが、その中で主なものを見てみると、

・市立病院建替事業、湯の川海水浴場整備、防災対策事  
 業、駅前・末広町整備事業、陸・海・空等のインフラ整備  
 事業、地場工業団地事業、テクノポリス推進事業、中小企  
 業金融対策事業、観光事業、国際交流事業など、まだまだ  
 記述したい事業が盛り込まれています。また、本年9月で  
 創立一〇〇周年を迎える当所の記念事業についての予算も  
 計上されています。

なかでも、今議会で市民が注目する事業として話題とな  
 るものは、この度の阪神大震災を教訓とした当市の防災対  
 策、人口定住対策、大学問題、福祉・環境問題などが考え  
 られますが、これらの問題は経済界にとっても大変重要で  
 あり、これからも積極的な部会、委員会活動の中で議論を  
 深めなければならぬ問題だろうと思います。

今後、行動する会議所として、より積極的に取り組んで  
 行き、思いきった提言なども必要ではないかと思っていま  
 す。

もちろん、提言するからには自らも実践することも重要  
 であることは、論を待たないところでしよう。



100年を  
明日に生かす  
商工会議所

# 会 議 所

## の 動 き

記念式典等、具体的な事業決まる！  
創立二〇〇周年記念事業実行委員会開催

去る二月二十七日、第六回創立一〇〇周年記念事業実行委員会が本所において開催されました。

会議では、これまで実施が予定されていた記念事業のうち、海外産業経済視察、はこだて産業展の実施に当っては、関係機関、諸団体の協力が不可決であり、これについては全面的な支援協力を得たほか、記念講演会の講師には元NHKアナウンサーの鈴木健二氏に決定、さらには記念事業に係る市等の補助金の交付が内定したことについて、それぞれ報告がなされました。また、記念事業実施に際する事業費(約七千六百万円)についても協議が行われ、いずれも原案のとおり了承されました。

なお、これらの記念事業に対する事前のPR活動を推進するためのロゴタイプ(上記)の配色、更に今後、他団体より協賛事業の申し入れ等については、正副委員長に一任することです承されました。

この結果、事務局では実施に向けて本格的な作業に着手し、諸準備を進めることとしております。記念事業の内容は、次のとおりです。

(具体的事業名)

◎海外産業経済視察

(五月二十六日～六月二日)

・ユーロトンネル鉄道開通視察団派遣(議委員会)

◎花電車(創立記念広報)

(八月一日～七日/九月二十八日・二十九日)

◎全道少年少女ヨット大会

(八月四日：開会式、八月五日～六日)

◎東日本ハンドボール選手権大会

(八月十六日：開会式、八月十七日～二十一日)

・場所：函館市民体育館

◎記念特別講演会

(九月九日)

場所：函館国際ホテル  
講師：鈴木健二氏

◎記念式典・祝賀会

(九月二十九日)

・場所：函館国際ホテル

◎鹿児島の物産と観光展

(九月二十九日～十月三日)

・場所：丸井今井函館支店

◎伸びゆくはこだて産業展

(十月上旬)

◎ロボットコンテスト'95道地区大会(協賛事業)

(十月二十日～二十二日)

・場所：函館市民体育館

◎生涯学習国際シンポジウム

(十月予定)

・場所：ホテル函館ロイヤル

◎記念史(百年史)刊行

(平成八年三月末)

・横書き五百頁、千部刊行

# 教育・交通網の整備を目指し！ 関係省庁へ強力に陳情！

去る二月二十三日、道立函館高等技術専門学院の整備充実と丘珠空港の早期整備について、それぞれ陳情を実施しました。

まず、道立函館高等技術専門学院の整備充実については、本所松崎副会頭から学院を所管する道商工労働観光部に対して、急速な技術革新に伴う有為な人材育成を図るため、訓練科目や施設の充実が必要であることから函館学院の整備を陳情したものです。

これに対して道側からは、道南の拠点校として位置付けており整備には取組むことになっているが、地域からの大きな声が必要であり、今後とも官民一体となった活動を要請されました。

また、丘珠空港の早期整備については、渡島・松山管内の二十七日町村の商工会議所、商工会で組織する「みなみ北海道広域商工振興連絡協議会」として、松崎副会

頭、大角道商工会連合会渡島支部長が参加し、道知事、道議会議長、札幌市長、札幌市議会議長に対して陳情を行いました。

# 人・まちづくりの講演会活発化！ 地域振興フォーラム・経済同友会講演会開催

「函館圏の明日を望んで」をテーマに、第九回地域振興フォーラムが、去る二月十七日、金森ホールにおいて開催されました。

主催は、函館圏一市三町、本所、函館青年会議所、函館地方法人会青年部会の七団体で、会場では二百名を超える参加者が熱心に聴講しました。

当日はまず、「二十一世紀の人づくり、まちづくり」と題して、都市工学の第一人者である早稲田大工学部教授戸沼幸市氏から、(1)原風景としての函館 (2)防災都

広大な本道にあって航空路の整備は、地域振興のため大きな課題であることから、丘珠空港のジェット化への対応を含め早期実現を陳情したもので、道及び札幌市からは、利用者アンケートや騒音など環境調査を今年度実施しており、この結果を待って地域住民との交渉に望みたいとの返答を得ました。

市函館 (3)交流の窓函館 (4)二十世紀の函館人像の四つをキーワードとした基調講演が行われ、その後パネルディスカッション、会場参加者からの質疑をもとに活発な討論が行われました。

また、去る二月六日には、北海道経済同友会函館支部主催による講演会がホテル函館ロイヤルで開催されました。この講演会は、同友会地方支部として初めての試みとなるもので、作家の城山三郎氏の「いま、リーダーの条件」と題した講演の後、本所松本会頭も出

席しての、同友会函館・札幌交流会が開催されました。

# 道商連第二回空港整備 対策特別委員会開催

道商連第一回空港整備対策特別委員会が、去る二月二十四日北海道経済センターで本所松本会頭が出席し、開催されました。

本委員会は、平成八年度を初年度とする第七次空港整備五カ年計画策定にあたって、道内各空港の整備に積極的に取組むため設置されたものです。

会議では、今後の取組みについて協議が行われ、新千歳空港の滑走路延長や函館空港の滑走路早期完成等について、関係省庁等への陳情を行うことになりました。

## (議員異動の) お知らせ

- ・会社名 函館トヨペット(株)  
(一号議員)
- ・異動日 平成6年12月2日
- ・異動内容 議員の職務を行  
う者の変更  
(旧) 故 河村 澤 治 氏  
(代表取締役社長)
- ↓
- (新) 河村 隆 平 氏  
(代表取締役社長)

## 雇用関連法の一部を改正 「高齢者の雇用を考える集い」開催

北海道並びに本所主催による「高齢者の雇用を考える集い」が、去る二月二十日五島軒駅前店会議室に於いて、九十六名の参加者が出席して開催されました。

今後我国では、急速に高齢化が進展することに伴い、出来れば六十五歳まで働けるような環境整備を進めていくことが、重要な課題となつていきます。国ではこれらを踏まえ今般、高齢者雇用関連法（高齢者雇用安定法・雇用保険法・年金法）の一部を改正し、その内容につき、各行政担当者より説明がなされました。引き続き本所日野事務局次長より、企業における高齢者雇用の取り組みと、六十五歳継続雇用地域推進事業の実施状況について、次のとおり報告を行いました。

(3)パイロット企業五社の継続雇用制度の導入実施(4)パイロット企業による視察研修の実施(5)高齢者雇用に関する参考資料の作成及び配布。最後に高齢者雇用アドバイザーの柳松和宏氏より「高齢者を活かす職場づくり」について講演があり、盛会裡に終了しました。

### 函館卸商連盟による 講演会開催

函館卸商連盟（和田一明会長）は、去る二月二十二日、定時総会に引き続き、札幌から佛経営サービスマスター代表取締役矢部藤男氏を講師に招き、「人財力強化のための共育法」と題して講演会を開催しました。

この中で、「共育」とは、教育する方も又、される方も共に学ぶということであり、特に経営者・管理者は、人を育てるための環境づくり、即ち、部下の「育ちたい

」という願望をいかに満たしてやるかが大きな課題である。

その為には、社内での人事管理システム（人事考課、給与、教育の各システム）の確立が前提条件となる。

人を育てる場合、(1)場当りのであつてはならないこと(2)自由と放任は異なること(3)反復、根気づく(4)叱る時は、一対一の原則で(5)誉める時は、人前でどんどんと。

即ち、やってみせて、言つて聞かせて、させてみて、誉めてやらねば人は動かさず、育たないことを肝に命ずるべきである。と強調され、改めて認識を深めました。

### 南ア共和国大使館参事官 本所を表敬訪問

貿易の拡大、特に自国産品の輸出の振興を図るため、外国公館関係者が相次いで来函しました。

訪れたのは、オーストラリア領事館から小林マーケティングマネージャー（一月二十六日）、南アフリカ共和国大使館からはニールヴアウト参事官、勝沼経済専門官（二月十五日～十六日）です。

来函目的はいずれも、市場調査および自国産品の紹介と新しい販売チャネル開拓のための企業訪問で、本所を表敬の後、個別に企業訪問を行いました。

情報化社会の成熟から、貿易情報への入手が全国どこからでもリアルタイムで可能になり、また、円高により輸入商品の市場価格競争力が強まったことや、輸出入規制の緩和などから、地方においても貿易取引の機会が増加することが予想されています。

特に、両国はともに南半球にあることから、農産物の生産季節が日本と反対になるという有利性があり、今後の進展が期待されます。





# 事務局日誌

## 2月

### \*正副会頭会議

- 9(木) 第10回正副会頭会議
- 27(月) 第11回正副会頭会議

### \*委員会

- 27(月) 創立100周年記念事業実行委員会

### \*会議(日商)

- 2(木) 平成6年度第2回商工会議所流通問題研修会
- 16(木) 第434回常議員会

### \*会議(道商連)

- 1(木) 平成6年度経営改善普及事業等事務打合せ会
- 22(木) 全道商工会議所大会運営研究ワーキンググループ委員会
- 〃 ビジョン策定検討委員会第5回委員会
- 24(金) 第1回空港整備対策特別委員会

### \*審査委員会

- 22(水) 第12回小企業等経営改善資金審査会

### \*諸会議

- 2(木) ブロック別65歳継続雇用地域推進事業業務推進経験交流会議
  - 〃 日銀四者懇談会
  - 〃 平成7年第1回函館市都市計画審議会
  - 〃 市民生協山の手店(仮称)の新設申し入れに伴う協議会
  - 〃 四共済受託生命保険会社社長との連絡会議
  - 〃 本所議員会三役会議
- 3(金) 第2回新外環状線計画推進研究会
  - 〃 函館市公害対策審議会
  - 〃 生涯学習国際シンポジウム函館開催に係る通商省との打合わせ会議
- 6(月) 65歳継続雇用地域推進事業事務打合せ
- 7(火) 函館極東貿易協同組合情報連絡会議
  - 〃 創立100周年事業産業展事前打合せ
- 8(水) 創立100周年事業事務局打合せ
- 10(金) 日銀金融経済懇談会
  - 〃 函館競輪運営協議会
  - 〃 (社)日本販売士協会販売士協会会員研修会及懇談会
- 13(月) サハリン特別委員会打合せ
  - 〃 函館市国際交流団体連絡会議
  - 〃 本所議員会三役会議
- 14(火) 日本商工連盟函館地区連盟会員懇談会
  - 〃 函館空港連絡協議会
- 16(木) 本所婦人会2月例会
  - 〃 平成6年度みなみ北海道観光連盟事務担当者会議
- 20(金) 管理職会議
- 21(火) 第2回道南地方道路交通環境整備懇談会
  - 〃 選挙管理委員会勉強会
  - 〃 所報「ともえ」3月号編集会議
- 22(木) 自衛隊函館地方連絡部就職援護渡島管内担当者会議
  - 〃 創立100周年事業産業展打合せ
  - 〃 函館卸商連盟定時総会議演会
- 23(木) 管理職会議
  - 〃 函館空港国際化推進協議会幹事会
  - 〃 函館経営者協会幹事会例会
- 24(金) 第2回函館デザイン交流会議
  - 〃 本所議員会議員懇談会
- 27(月) 渡島・松山地域雇用開発会議
  - 〃 函館販売士協会役員会
- 28(火) (社)北海道雇用開発協会地域雇用開発推進員会議

### \*講習・催物

- 1(木) '95はこで冬フェスティバルオープニングセレモニー
- 8(水) 経営相談
- 9(木) 納税相談(〜3/10)
- 11(土) '95はこで冬フェスティバル五稜郭公園会場オープニングセレモニー
- 14(火) '95はこで冬フェスティバルフィナーレ

- 17(金) 第9回地域振興フォーラム
- 20(月) 高年令者の雇用を考える集い
- 24(金) 法律相談
- 26(日) 「阪神大震災」支援チャリティコンサート

### \*刊行物

- 10(金) 所報「ともえ」2月号 No.160
- 13(月) 「PL法で変わる企業経営」

### \*相談・診断

金融 45 税務 337 経理 2 経営 22  
労働 0 取引 1 その他 1 合計 408

### \*貸室

貸室 13

### \*文書受信

受信 178 発信 20

### \*検定・大会

- 8(水) 第22回1級、第35回3級小売商(販売士)検定試験
- 12(日) 第143回珠算能力検定試験

### \*陳情・要望

- 23(木) 丘珠空港の早期整備に関する陳情
- 〃 道立函館高等技術専門学院の整備充実に関する陳情

### \*慶弔・その他

- 1(木) 北洋はまなすクラブ経済講演会
- 2(木) 堀達也氏表敬訪問
- 3(金) 読売新聞三村函館支局長来所
  - 〃 (株)函館ハーバービューホテル木村総支配人他就任挨拶
- 6(月) 第1回北海道経済同友会函館支部講演会
  - 〃 第1回北海道経済同友会函館・札幌交流会
  - 〃 名鉄観光サービス(株)北海道支社近藤顧問、矢野団体センター長表敬訪問
  - 〃 よしだ恵税後援会伊藤安昌氏他来所
- 8(水) 函館同業会新年懇親会
- 9(木) 日本道路公団札幌建設局西部函館工事事務所長就任挨拶
- 10(金) 函館どつく(株)函館造船所S No.157(1700総トン型自動車航送船)進水式、祝賀会
  - 〃 (社)日本自動車販売協会連合会函館支部平成7年度通常総会懇親会
  - 〃 桜井外治連合後援会新年交礼会
  - 〃 伊東秀子さんを励ます会
  - 〃 伊東秀子さんを囲む夕食会
- 12(日) 珠算能力検定試験施行50周年記念検定試験委員永年勤続表彰状伝達式
- 15(水) 在本邦南アフリカ共和国大使館ニーヴォルト参事官表敬訪問
  - 〃 (社)日本中国料理調理士会函館支部新年懇親会
  - 〃 函館日韓友好親善協会1995年新年会
  - 〃 北海道電波管理局北川有線放送課長表敬訪問
- 16(木) 函館公和会新年懇親会
  - 〃 函館西警察署佐藤署長着任挨拶
  - 〃 北海道警察函館方面本部小竹参事官、岩淵総務課長着任挨拶
- 17(金) 函館市商店街振興組合連合会平成7年新年懇親会
- 18(土) 函館織維商組合新年懇親会
- 19(日) 函館中央卸売市場買参者商業協同組合新年懇親会
- 20(月) 漁火会
  - 〃 三井生命保険(相)営業推進部島田部進表敬訪問
- 22(水) 北東公庫高橋函館事務所長来所
  - 〃 ANA峰函館支店長、久末ステューデス来所
- 23(木) (財)テクノポリス函館技術振興協会デザインセミナー
- 26(日) 函館水産物小売商業協同組合創立50周年・法人化20周年記念式典、祝賀会
  - 〃 (財)開陽丸青少年センター林副理事長他表敬訪問
  - 〃 道商連光地常務理事来所
- 28(火) (社)函館馬主協会新年懇親会
  - 〃 函館日口親善協会ロシア極東大学函館在校生及び在函ロシア人との交歓会

を続ける見通し。また、生コンも奥尻島での防潮堤建設など災害復旧工事向けを中心に高水準の出荷を続けている。一方、段ボールの生産は、主力の青果物、加工食品向け等が低調に推移したため前年を下回った。また、合板は、過剰在庫を抱えているため抑制的な生産姿勢を継続しているが、阪神大震災の仮設住宅向け復旧需要もあり、このところ需給環境が改善している。漁網は、需要の低迷から抑制的な生産姿勢を継続している。

(4) 建設関連

管内公共工事請負額は、6年度累計(4月～7/1月)では高水準であった前年度並みの水準を維持しているが、1月単月では10月以降4か月連続して前年比マイナス65.5%と、頭打ち傾向を示している。また、函館市および周辺3町の新設住宅着工戸数(1月)は、持家が前年を上回ったものの、貸家が大幅に減少したため、3か月振りに前年比マイナス22.3%と下回った。この間、建設業者は、公共工事を中心に高めの受注残を抱えて繁忙感を継続しているものの、先行きについては大幅な受注増加は期待できないうえ、南西沖地震にかかる災害復旧工事も進捗しているため、受注残の減少を懸念する先もみられる。

(5) 漁業

漁業では、スケトウ漁はこれまでの低調な水揚げに変化はみられず、水揚げ量、金額とも前年を大きく下回ったまま、前年より早めの終漁となった。噴火湾ホタテ漁は、同湾のスケトウ漁の終漁に伴うホタテ漁への切替えが前年より早かったため、現時点では前年を上回る順調な水揚げとなっている。

(6) 消費関連

1月の市内大型小売店の売上高は、阪神大震災直後から来店客数が減少し、主力の衣料品を中心に売上げが伸び悩んだことから、再び前年比マイナス4.8%と下回った。もともと、2月入り後は中旬以降来店客数が持直してい

る。耐久消費財では、家電販売が、白物家電の堅調に加え、パソコン等情報家電に引き続き動きがみられ、好調を持続した。また、新車登録台数は、新車投入が潜在的な買替え需要を刺激して回復傾向にあるものの、1月については、普通車が前月に比べ伸び率を低めたほか、小型車が伸び悩みを続け、前年比マイナス0.7%と僅かに下回った。この間、観光・レジャー面をみると、阪神大震災の直後から関西方面からの予約キャンセルがみられたこともあり、これまで好調であった団体客の入込みが減少したため、1月の市内主要ホテルの宿泊客数が7か月振りに前年を下回ったほか、観光施設の利用客数も前年に比べ減少した。

3.金融事情(1月中)

実質預金は、法・個人預金がまずまずの推移となったことから、月中435億円減と前年の499億円減を下回る減少幅となったほか、残高ベースでも前年比プラス2.6%と引続き堅調に推移した。また貸出は、全体として低迷の域を脱していないものの、一部で小ロットの設備資金の需要がみられたこと等から、月中304億円減と前年の316億円減をやや下回る減少幅に止まり、残高ベースでも2か月連続して僅かに前年比プラス0.5%と上回った。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、長期金利が住宅ローン金利の引上げを背景に、短期金利も低レート資金の返済が嵩んだことを映じてともに上昇したため、全体では月中プラス0.01%と3年6か月振りの上昇となった。

銀行券は、月中260億円の還収超とほぼ前年並みの263億円の還収超。

財政収支は、郵便局、租税の受入れ減少を主因に、月中107億円の受超と受超幅は前年の139億円受超を下回った。

データをチェック!

小学校の教員数

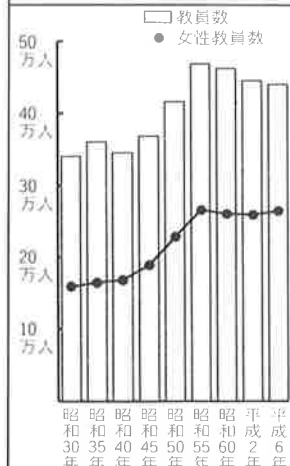
～女性の先生が全体の6割を超す～

平成6年5月1日現在の小学校の先生数は、434,940人。前年と比べると、わずか1年で約3,000人減っていることとなります。さらに、先生1人当たりの受け持ち生徒数も19.7人と、初めて20人を下回りました。昭和33年の最大37.1人と比べると、受け持ち生徒数はおおむね半数になっています。

こうした背景もあり、先生数は昭和57年以来、減少し続けています。しかし、女性の先生は男性に比べ約9万人も多く(平成6年)、264,273人となっています。

女性の先生数を全小学校教員数と対比すると、昭和30年には半数以下の46.46%(158,239人)でしたが、10年後の40年には約48%。そして昭和50年には男女の数が逆転し、女性が占める割合が54.75%(227,258人)になりました。その後も増加を続け、平成6年には10人に6人が女性の先生という、過去最高の数値を示しています。

小学校の教員の推移





地域の景気

# 金融経済 概況 1月

(平成7年2月28日)

日本銀行函館支店

## 1. 概況

管内経済をみると、住宅投資が堅調を継続しているほか、公共投資も頭打ち傾向ながら依然高水準に推移、また、個人消費が一本調子ではないものの引続き改善傾向にあり、景気全体は緩やかに回復している。もっとも、設備投資が依然低調に推移しているなど景気の回復テンポはこれまでの回復期に比べ緩やかなものに止まっている。

すなわち製造業では、水晶発振器が移動体通信機器の需要好調を背景として増産を継続している。また、セメントが外需、官公需向けにフル生産を続けているほか、半導体も米国向け4MDRAMや国内パソコン・ゲーム機向けマイコンを中心にほぼフル生産体勢となっている。合板機械、漁業機械も引続き高操業を維持している。なお、造船は新造船部門等が好調ながら、橋梁部門は年度末を控えたこの時期としてはやや低めの操業となっている。こうした中、水産加工品の売上は、生鮮珍味の堅調持続に加え、乾燥珍味でも流通在庫の減少等を背景に引続き受注が持直し、全体では僅かながら3か月連続して前年を上回った。一方、製缶機械、水産加工機械の売上はともに低水準に止まっている。

非製造業では、1月の市内大型小売店の売上は、来店客数の減少から主力の衣料品を中心に伸悩み、再び前年を下回った。また、家電販売は、白物家電の堅調に加え、パソコン等情報家電も好調に推移している。1月の新車登録台数は、普通車の伸悩み中、小型車が引続き前年割れとなったことから、僅かながら前年を下回った。この間、市内の観光動向をみると、阪神大震災に伴う予約のキャンセルがみられるなど、関西方面からの団体客の入込みが減少したこともあって、宿泊施設、観光施設とも利用客数が前年を下回った。

漁業では、スケトウ漁は、水揚げ量、金額とも前年を大きく下回ったまま既に終漁。一方、噴火湾ホタテ漁は、前年を上回る順調な水揚げとなっている。

阪神大震災が当地経済に与える影響を窺うと、製造業では、食料品において関西の間屋への製品納入がストップ、あるいは関西以西への製品輸送等に支障が生じている先がみられるものの、こうしたマイナスの影響を受け

ているのはごく一部であり、総じてみれば生産、売上動向に大きな変化はなく、影響は軽微なものに止まっている。一方、非製造業では、主力の観光で近畿方面からの団体客のキャンセルが相継ぎ、昨夏以来、前年比プラス傾向にあった観光施設利用客数が地震の発生した1月にはマイナスに転じるなどの影響を受けている。

先行きについては、製造業において、関西以西への物流が停滞していることを心配する先がある一方で、合板等今後の復興需要に期待する向きもみられるが、いずれの影響についても当地は遠隔地ということもあって軽微なものに止まる予想。これに対して観光関連を中心とする非製造業では、春の観光本格シーズン入りまでに旅行自粛などのマイナスの影響が払拭されるかどうか心配する先がみられる。

この間、設備投資動向をみると、このところ小売、サービス、運輸・倉庫の一部で小口のものが見られるが、大方は引続き慎重な投資スタンスを維持。また、先行きについても、これまで能増投資を続けてきた電気機械が、現時点では様子見の姿勢をとっていること等から、引続き盛上りを欠く展開が予想されている。

1月の金融動向をみると、預金は法・個人預金を中心に引続き堅調な推移となった。また貸出も、全般的な資金需要自体は依然として不振を余儀なくされているものの、残高ベースでは2か月連続で僅かに前年を上回った。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は3年6か月振りに前月の水準を上回った。

## 2. 主要業種別動向

### (1) 機械、電子部品

水晶発振器は、国内外における移動体通信機器向けの需要好調に伴い、下請け先ともども増産を継続している。半導体は米国向け4MDRAM、国内パソコン・ゲーム機向けマイコンを中心にほぼフル生産となっており、臨時工の増員を図っている。また、合板機械は針葉樹対応機械などの豊富な受注残の消火から、漁業機械はイカ釣り船向けの需要から、ともに高水準の生産を続けている。造船は、新造船部門や官庁船の修繕船部門が高操業を続けているものの、橋梁部門はやや仕事量が減っている。もっとも産業機械部門では、このところ電力向け大口案件の新規受注がみられる。一方、製缶機械は、受注残が低水準であることから抑制的な生産体勢を継続、水産加工機械も中小水産加工業者の設備投資抑制姿勢が強いため、売上低迷が続いている。

### (2) 食料品

水産加工品では、生鮮珍味が惣菜向け低価格品を中心に順調な売上を続けているほか、乾燥珍味も年末からの受注持直しが続いているため、全体の売上は僅かながら3か月連続して前年を上回った。もっとも、2月入り後の受注は、生鮮珍味は引続き順調に推移しているが、乾燥珍味は不要期ということもあってやや低調に推移している。この間、魚油は食料品向け等を中心に油脂需要が高まっており、順調な売上となっている。

### (3) その他製造業

セメントは、東南アジアからの旺盛な引合いや官公需の堅調持続もあって当分フル稼働

傾向。業種によりバラツキが見られるが、閑散期入りの業種を中心に、依然慎重な見通しとなっている。

【卸売業】

今期比 -29.8、前年同期比 -23.4となっており、引き続き低調な見通し。D Iがプラスの業種が見られなかった。

【小売業】

今期比 -16.0、前年同期比 -18.5と再びマイナスに転じており、衣料品小売業、食料品小売業を中心に「減少」を見込む企業が多くなっている。

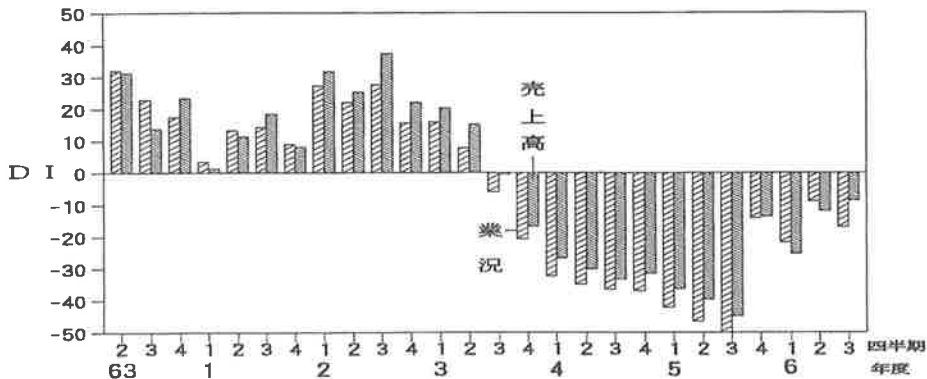
【サービス業】

今期比 -19.3、前年同期比-6.7となっており、業種によりバラツキは見られるが、観光関連業種を中心に総じて厳しい見通しとなっている。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業 4.7%に対し、「変わらない」とする企業が79.6%、「悪化」とみる企業15.7%で、D Iは -11.0となり、今期同様の見通しとなっている。

図-7 業況・売上額D I推移 (全業種・対前年同期比)



函館市内、第一種大規模小売店舗売上高<10店>

平成7年1月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,189,785	87.1	91.1
身の回り品	773,288	72.9	94.2
雑貨	751,269	73.4	95.0
家庭用品	607,458	66.7	93.8
食料品	1,657,489	46.5	97.9
食堂・喫茶	174,390	95.2	94.9
サービス	65,456	85.4	88.9
その他	576,261	68.7	100.4
合計	7,795,396	68.9	94.1

<10店>棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店

統計資料

## 5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、引き続き「売上・受注の不振」をあげる企業が38.3%で最も多くなっている。

問題点を業種別にみると、

建設業では「受注の不振」が40.0%で最も多く、次いで「純利益の減少」20.0%、「工事価格の値下がり」、「景気の見通し難」がそれぞれ15.0%となっている。

製造業では「売上・受注の不振」が38.9%、「製品安」、「純利益の減少」、「景気の見通し難」がそれぞれ16.3%。

卸売業では「売上・受注の不振」32.0%、「販売価格の値下がり」23.4%、「景気の見通し難」17.0%、「純利益の減少」14.9%の順となっている。

小売業では「売上の不振」が53.1%で圧倒的に多く、「客足の減少」、「純利益の減少」がそれぞれ10.2%となっている。

サービス業で最も多かったのは「客単価の値下がり」で25.8%、「売上の不振」、「客足の減少」がそれぞれ22.6%が続いている。

### 来期(1月～3月)の見通し

今 期： 6年10月～12月実績

前年同期： 7年 1月～ 3月実績

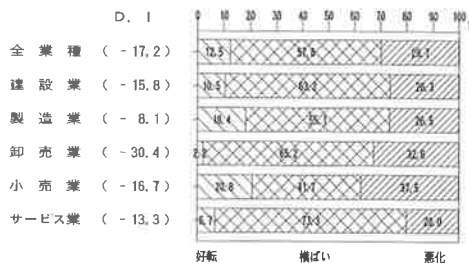
### 1. 業況について

来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業10.2%に対し、「横ばい」とみる企業が54.6%、「悪化」するとみる企業は35.2%となっており、D Iは -25.0。

前年同期比でみると、「好転」12.5%に対し、「横ばい」57.8%、「悪化」29.7%で、D Iは -17.2となり、引き続き低調な見通しとなっている。

業種別のD Iでも、今期比、前年同期比ともにプラスの業種はなく、依然厳しい見通しが続いている。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

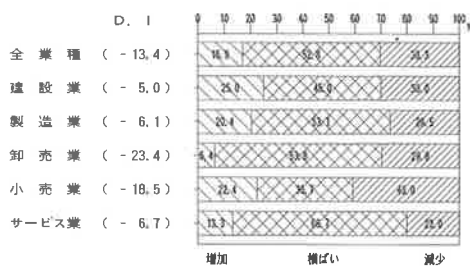


### 2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業15.7%に対し、「横ばい」とみる企業が46.7%、「減少」するとみる企業は37.6%で、D Iは -21.9となっている。

また、前年同期比でみると、全業種では「増加」16.9%に対し、「横ばい」が52.8%、「減少」が30.3%で、D Iは -13.4となり、引き続き減少傾向が見込まれている。

図-6 来期の売上見通し (対前年同期比)



次に来期の売上見通しを業種別のD Iでみると、

#### 【建設業】

今期比-5.3、前年同期比-5.0と再びマイナスに転じており、総合工事業で「減少」を見込む企業が多くなっているが、設備工事業では比較的好調な見通しとなっている。

#### 【製造業】

今期比 -28.0、前年同期比-6.1と依然減少

次に売上額を業種別にみると、

**【建設業】**

今期の工事完成額についてのD Iは、前期比30.0、前年同期比26.3と好調裡に推移。特に総合、設備工事業で「増加」している企業が顕著となった。

**【製造業】**

今期の生産額についてのD Iは、前期比が8.0、前年同期比 -10.0となっており、前期比では水産加工業、食料品製造業で、前年同期比では水産加工業で「増加」と回答した企業が目立っている。しかし製網業をはじめその他の業種では引き続き「減少」と回答した企業が多くなっている。

**【卸売業】**

今期の売上額についてのD Iは、前期比が17.4、前年同期比が -10.8となっており、前期比では食料品、燃料、機械器具卸売業で、前年同期比では機械器具卸売業で「増加」と回答した企業が多く見られた。また、繊維製品卸売業をはじめその他の業種では引き続き停滞基調で推移している。

**【小売業】**

今期の売上額についてのD Iは、前期比が -10.0、前年同期比が -22.9となっており、前期比では、各種商品小売業で、前年同期比では自動車小売業で「増加」と回答した企業が多くなったが、ほかは総じて停滞基調で推移している。

**【サービス業】**

今期の売上額についてのD Iは、前期比が -12.9、前年同期比-3.2となっており、前年同期比の美容・クリーニング業で「増加」と

回答した企業が目立ったが、他では「横ばい」、「減少」と回答している企業が圧倒的で、厳しい状況が続いている。

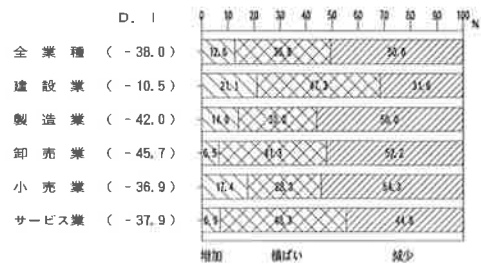
**3. 純利益について**

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業19.9%に対し、「横ばい」が34.7%、「減少」している企業45.4%で、D Iは -25.5となり、引き続き減少傾向。

また、今期の純利益を前年同期比でみると、全業種では「増加」12.6%に対し、「横ばい」36.8%、「減少」50.6%で、D Iは -38.0となり、依然減少傾向で推移している。

業種別にみても、すべての業種で前期比、前年同期比ともにD Iがマイナス、採算の悪化傾向が続いている。

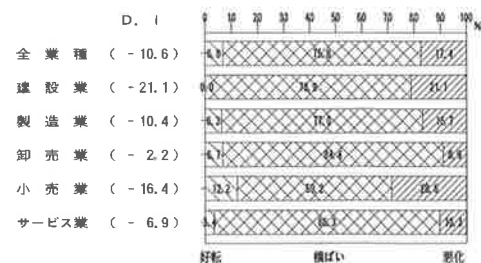
図-3 今期の純利益 (対前年同期比)



**4. 資金繰りについて**

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」している企業6.8%に対して、「変わらない」とする企業が75.8%、「悪化」している企業17.4%で、D Iは -10.6となっている。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)



# 函館地域における 景気動向

〈平成6年度・第3四半期〉

平成6年度・第3四半期（平成6年10月～12月）の函館地域における景気動向調査（本所調査）結果がまとまりましたので、概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	198社	61.9%
建設業	40	20	50.0
製造業	80	50	63.0
卸売業	70	47	67.1
小売業	90	50	55.6
サービス業	40	31	77.5

（注）本調査結果の中のD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

## 今期(10月～12月)の実績

前 期： 6年 7月～ 9月実績

前年同期： 5年10月～12月実績

### 1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業25.5%に対し、「横ばい」が46.9%、「悪化」している企業27.6%で、D Iは-2.1とわずかながらマ

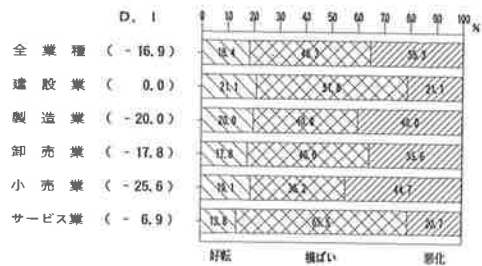
イナスに転じている。

業種別のD Iで見ると、製造業、卸売業がそれぞれプラスとなったが、建設業、小売業、サービス業ではマイナスとなっている。

今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では、「好転」18.4%に対し、「横ばい」が46.3%、「悪化」が35.3%で、D Iは -16.9となり、平成3年度第3四半期以降、13期連続のマイナスとなった。（図-7参照）

業種別のD Iでも、いずれもマイナスを脱せず、企業の業況感は未だに停滞基調で推移している。

図-1 今期の業況（対前年同期比）



### 2. 売上額について

今期の売上額を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業31.5%に対し、「横ばい」が41.6%、「減少」している企業26.9%で、D Iは 4.6となり、わずかながらプラスに転じている。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」25.3%に対し、「横ばい」40.7%、「減少」34.0%で、D Iは-8.7となり、やはり13期連続のマイナス、依然低水準で推移している。（図-7参照）

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

